



映画撮影が日々続いています。1/3の山を越えたところ。 南医療生協の流儀が見えてきた。



映画班の皆さんです。

左から、監督 小池征人さん、助監督 藤崎仁志さん
撮影助手 吉田晃太さん 撮影 一ノ瀬正史さん
この日は、みなしる文庫の撮影でした。

1月末まで連日撮影が続いています。この間、日間賀島、瀬戸の外国人健康チェック、岩城先生と室生先生の懇談をはじめとして、多くのブロック、事業所を回っていただいています。

映画班の皆さんからは、「ひとつのを行なうのに大変な時間をかけて合意形成をしている。一人の秀でた人が実践しているのではなく、志をもった人たちが集まり、モノをつくり、利用し、そこから協同性が生まれてくるという感じがした。うまく伝わればいい映画になる。」「南医療生協の流儀が見えてきている。」とコメントを寄せていただいています。

記録映画撮影依頼書は 現在 90 枚

支部ブロック計	28 枚
南生協病院	28 枚
かなめ病院	15 枚
きままでんぐ苑	8 枚
診療所	5 枚
老健あんき	3 枚
本部	3 枚
事業所分計	62 枚

1班1枚、1職員1枚で さらに発信していきましょう。

在宅医療の取り組みや、緩和ケアなど、地域とつながって支えられている事例。事業所利用委員会、まるわかり見学会、職場班会の取り組みなど。撮影におじゃまするところへは、連絡が行きますのでよろしく願いいたします。



地域だんらんの家（映画班の皆さんが宿泊している民家）の壁いっぱいに模造紙が貼りめぐらされ、撮影計画などがびっしり書き込まれていきます。